



平成26年度 日米共同方面隊指揮所演習を支えた隊員たち

YAMA SAKURA 67

平成26年12月2日から12月15日まで、陸上自衛隊朝霞駐屯地で「平成26年度 日米共同方面隊指揮所演習」が行われた。陸自側は、統制官に陸上幕僚長 岩田清文陸将、部隊指揮官に東部方面総監 磯部晃一陸将。米軍側は統制官に米太平洋陸軍司令官 ビンセント・K・ブルックス大將、部隊指揮官に第1軍団長 スティーブン・R・ランザ中將。参加人数は自衛隊約4500名、米軍約2000名という陸上自衛隊最大規模の日米共同訓練だった。演習は、前半に「機能別訓練」、後半に5夜6日にわたる「総合訓練」を行った。また、準備訓練があって本番があるのではなく、年度を通じた訓練の積み重ねがYS訓練であるとの認識から25年度の3月から調整・訓練を行ってきた。(詳細は、防衛ホーム平成26年12月15日号・平成27年1月1日号参照)

統制部等は、企画統制部・AAR部・研修対応広報部・警備保全部・監理部・メンター付等に分かれていて、各部がYS-67の成功のため英知を結集させた。

11月上旬、YS-67が行われる朝霞駐屯地に足を踏み入れてみると、平素は見ることのできない英語のバス停や案内板、駐屯地の中は米軍の人々が行き交っていた。そして、北グラウンドは200張を超える天幕で埋め尽くされている。その天幕の美しい並び、芸術的な側溝…。いつもはない場所にストープや柱・電柱が立っている。今回は、違う角度でYS-67を観てみた。(吉田佳子)



ケネディ駐日米大使が木製通路を歩いて視察。左は磯部晃一東部方面総監

施設

天幕

管理部の中にある「管理課」「朝霞管理支援隊」「施設支援隊」「輸送支援隊」等が担当。8月19日から1月23日の撤収完了まで東方面隊のほぼ全部の部隊からの応援要員を含め約800名が関わった。



共同調整所になる天幕設置のため、まずは測量から。測量するために斜めに杭を打ち込むのは、かなりの技術が必要



天幕設置前に今ある芝生をはがす。再びもとに戻すので慎重に丁寧に。元は北グラウンド

1枚約80kgの天幕を張る隊員たち



天幕の中、プラスチックで雨樋を作りプラスチックの板を貼る。足下は雨が貯まらないように角度を付けて側溝を掘った上に床を作る



側溝の美しさは一見の価値有り。直角に掘られた穴は芸術だ

天幕脇の木製通路の下はこんなに深い溝が隠れている

宿舎



朝霞管理施設隊が担当。方面内の空きベッドを集め、米軍のベッドを心を入れて作り上げる。日米の信頼関係構築を更に高めるために

各種施設



サークルバスで移動支援。英語のバス停

統制部が置かれる駐屯地体育館。テーブルや椅子、電話や電気やPC等を配置

米隊員食堂・フレンドシップホールとなる旧隊員食堂も受け入れ態勢万全

各地から訪れる自衛官への案内板も至る所に

文化交流

研修対応・広報部の中にある「親善行事室」が担当。多くの予備自衛官も活躍した。



日米共同調整所。通訳は大事な任務、予備自も大活躍



ホームビジットにおける御手前

おちよこを丁寧に箱詰め



日米対抗折り紙合戦で白熱



福笑い作成に懸命な隊員ら

幼稚園訪問 園児との相撲一番

日本の心 書道

通信

企画統制部の中にある「統制通信課」が担当。東方通信群を主体とした通信課部隊等からの応援要員を含め、約460名が関わった。



通信の仕事は最初から最後まで



ケーブルはクレーンで搬送

この演習で約3000mの有線が必要



電柱に上っての作業準備



有線構成 指揮所演習の命

野外用の光ケーブル約2000m展張準備